



原田氏

レアメタル資源再生技術研究会(会長＝藤田豊久・東京大学名誉教授)は18日、オンラインで第20回研究会をオンラインで開催した。今回は「ポストコロナの産業活性化に向けた循環経済ビジョンと資源リサイクルの展望(第2弾)ー日本型循環経済とEUのサーキュラーエコノミー」がテーマとなった。

レアメタル資源再生技術研究会・講演要旨

循環経済ビジョンと資源リサイクルの展望



中村氏

会形成のためのシステム構築などを加えた議論に発展している。今回は循環経済に関する研究会として第2回目の開催となる。日本と欧州から講演者を招いた。よの深く議論を進めてほしい」と語った。

モノ(物質)を売るのでなく素材の機能化技術が重要と語り、リサイクルは「資源回収」から「残存価値」の還元と再提供に拡大することが重要との認識を示した。

脱炭素で潮流変化

素材の機能化技術の売る発想が重要に

環境で取り扱われていることなく素材の機能化技術が重要と語り、リサイクルは「資源回収」から「残存価値」の還元と再提供に拡大することが重要との認識を示した。

続いて同研究会理事で福岡県リサイクル総合研究所長の中村崇センが「サーキュラーエコノミーの課題と今後の方向性ー日本と欧州の資源リサイクルの得意・不得意」について語った。

直接的に金属の二次原料事業を経営する業者も数多く存在しており、適切に循環しているケースでは大きな影響はないかもしれないとの意見をしつつも、最終的にはトレーサビリティが強化され、途上国における準備状況などが関連されるようになるなど一定の影響が出る可能性があるとの認識を示した。



ツッカー氏

また、現在社会は経済成長を進めるためにバリエーション材を未だに必要としている事実を示しつつも「それでも今からサーキュラーエコノミー(循環性)に移行しなければならぬ」と、循環経済の重要性を訴えた。